



廣河 隆一

人の戦場

ジャーナリストであるまえに、
ひとりの人間として。

RYUICHI HIROKAWA:
*human
battlefield*

「ニッポンの嘘 報道写真家 福島菊次郎90歳」

長谷川三郎監督 最新作

製作 守屋祐生子 音楽 青柳拓次 撮影 山崎裕、高野大樹、井手口大輔 タグラス 錄音 森英司

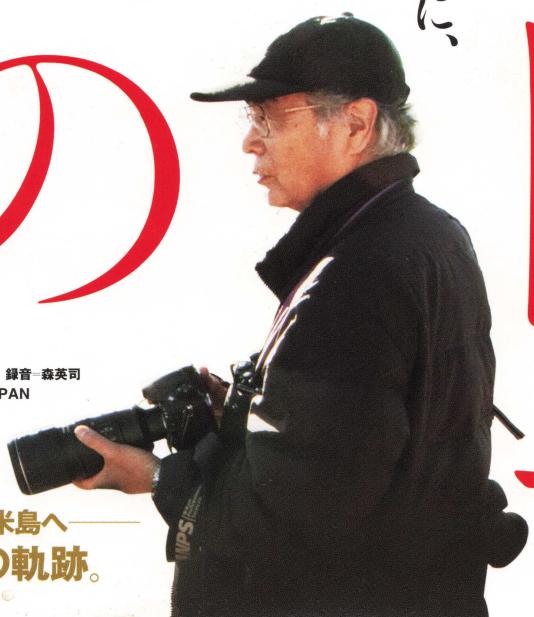
編集 鈴尾啓太 助監督 勝俣和仁 プロデューサー 橋本佳子 協力 DAYS JAPAN

制作 Documentary Japan Inc. 配給 東風 監督 長谷川三郎

2015年 日本 98分 DCP / BD ドキュメンタリー ©2015 aureo

www.ningen-no-senjyo.com

パレスチナ、チェルノブイリ、福島、沖縄・久米島へ——
フォトジャーナリスト広河隆一の軌跡。



「人間という大きなアイデンティティのなかに、ジャーナリストというアイデンティティが包まれている。だから目の前に溺れている人がいれば、カメラを置いて助けるべきなんですね」

フォトジャーナリスト広河隆一の哲学は言葉こそ明快だが、厳しい。それを実践する自分自身に烈しい生き方を求めずにはいなかった——。その取材の歴史は1967年、イスラエル・パレスチナに始まる。82年、イスラエル軍に包囲されたレバノンのパレスチナ難民キャンプで起きた虐殺事件を撮影、その映像が証拠として世界に配信された。89年には西側のジャーナリストとして初めて切尔ノブイリ事故によって立入禁止になった地区を取材し、隠された放射能汚染を告発した。人間の尊厳が奪われている場所を、広河は「人間の戦場」と呼ぶ。

活動は取材だけにとどまらない。「切尔ノブイリ子ども基金」「パレスチナの子どもの里親運動」を立ち上げ、傷ついた子どもたちの救援活動に奔走する。2011年の福島原発事故後には子どもたちの健康回復のため、沖縄県久米島に保養センター「球美の里」を設立した。そして2014年、広河は10年務めてきた報道写真誌「DAYS JAPAN」編集長を退任した。それは残された時間を現場取材に獻げるための決断だった——。

広河隆一と主な救援活動

「パレスチナの子どもの里親運動」

パレスチナ難民キャンプの子どもたちの支援運動として1994年に設立。広河は設立時に代表を、現在は顧問を務める。親を亡くした子どもたちの生活費や教育費を出す活動を始め、ほぼ同時に設立したパレスチナ子どものキャンペーンとともに難民キャンプに「子どもの家」を設立した。

「切尔ノブイリ子ども基金」

病気の子どもをもつ母親たちの呼びかけを受け、1991年に設立し、切尔ノブイリ事故後の子どもたちの救援を始めた。ペラルーシやウクライナの病院に日本から医療機器・医薬品を送り、子どもたちの保養施設「ナデジダ」(ペラルーシ)、「ユージャンカ」(ウクライナ)の建設や運営を支援してきた。現在広河は代表を退いている。「ナデジダ」ではこれまでに7万人の子どもが保養している。

「球美の里」

福島原発事故で被曝したか、あるいは現在も汚染された地域に暮らす子どもたちの健康維持と回復のため、日本で最初の保養センターとして2012年7月に沖縄県久米島に設立。2015年9月までに子ども1708人、保護者450人を受け入れる。2015年秋に広河は理事長を退任した。現在名誉理事長。



www.ningen-no-senjyo.com

12月19日(土)よりロードショー公開決定

全国共通特別鑑賞券 ¥1,300(税込)発売中

当日一般:1,800円 / 大・高:1,500円 / 中・小・シニア:1,000円

新宿K's cinema

新宿駅東南口階段下
甲州街道沿ドコモショップ左入り
03(3352)2471 www.ks-cinema.com
自由席・整理券制・定員入替制

